



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 9 月 第 47 号

平山小学校の皆さんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしていた吉野です。(7 月末に日本に帰国しました。)
7 月末に 2 年間のナミビアでの任期を終了し日本に帰国しましたが、帰国後 1 か月近く、日本の気候に慣れず、謎のアレルギー症状や体調不良、肌荒れなどが発症して困っていました(笑)。最近、やっと、日本に住んでいた頃の感覚がもどってきたのか、今は日本の生活に適応して元気に過ごしています。「ナミビアの気候が自分に合っていたのかもしれない...」そんなことを日本に帰ってきてから人に話すと、「アフリカの方が暑くて大変そうなイメージだけど...」「ナミビアって砂漠だから乾燥がすごいんじゃないの?」などと毎言われます。どうやら「アフリカ=暑い」というイメージをもっている人も多いようです。でも、そういうわけではありません。ナミビアにも寒い季節はあります。そして、日本の湿度の高さに比べると乾燥してはいますが、暑い日もベタつかずカラッとした暑さで私にとっては心地よかったです。乾燥していることにより、洗濯物がすぐに乾くという点もとてもよかったです。

気候以外にも、2 年間の間にナミビアのいいところがたくさん見つかりました。2 年前は全く知らなかったナミビアという国が、今では大好きな国になりました。そこで、今日は私の個人的なナミビアの好きなところに触れつつ、2 年間のナミビア生活を振り返っていきたいと思います。

ナミビア生活を振り返って

異なる民族が一緒に暮らしているということ

最近では日本でも外国から来た方を見かける機会は多くなってきましたが、2025 年現在、日本に住む人の約 97% が日本人だといわれています。(参考: 総務省 HP) しかし、ナミビアは日本と違い、10 を超える異なる民族が一緒に生活しています。ナミビアという 1 つの国の中で、いくつもの異なる文化や言語が存在しているのです。日本では考えられない感覚ではないでしょうか。

私もナミビアに来る前は、「異なる民族が共存している」と聞いても、それが日常にどう影響するかは想像すらつきませんでした。でも、実際にナミビアで生活してみると、いくつか気が付いたことがあります。これらは全て私個人の気付きなので、参考までに読んでください。

1 つ目は、多くの人が外国人を抵抗なく受け入れられることです。私が住んでいた町はとても小さな町でしたが、私が住み始めると、突然やってきたアジア人なのにも関わらず多くの人がとてもフレンドリーに話しかけてくれ、その町のことを親切に教えてくれたり、困ったことがあったらすぐに助けてくれたりと、私を町の一員としてあたたかく受け入れたことがとても印象に残っています。

2 つ目は、価値観の違いや、異なることが「当たり前」であるという感覚です。普段から異なる文化の人々

と関わりをもっているため、「文化が違えば価値観も違う」という感覚が人々の中に当たり前のよう存在しているような印象を受けました。納得できないことや、分かり合えないことがあっても、もちろん意見を交わし合ったり、ぶつかり合ったりもしますが、「仕方ない」と消化できる人が多いような気がしました。言い方を変えると、いい意味で何事も長く引きずらない印象を受けました。

もちろん、異なる民族が一緒に暮らすことには、大変な面もたくさんあります。でも、日本にいた時には感じたことのなかった、その良さや大変さを実感できたことは私にとって貴重な財産になりました。

慣れない地で生活すること

この2年間、私は「ボランティア」という立場でナミビアへ行きました。「ボランティアという立場なのだから、自分自身が何かナミビアの役に立たなければ！」という気持ちで現地へ行きましたが、実際には自分がナミビアの人々を助けるというよりも、自分がナミビアの人々に助けられた2年間でした。

日本人が自分しかいないという環境での生活は、最初はとても心細く感じましたし、不安も多くありました。でも、それでも2年間その地で生活できたのは、周囲の方々がどんな時でも私を気にかけて、助けてくれたからです。私が失敗したり上手くいかないことがあったりすると話を聞いて励ましてくれ、私を家族の一員かのように受け入れあたたかく接してくれ、そんな親切な人々に囲まれていたからこそ、充実したナミビア生活を送ることができたと思います。お世話になった全ての人に心から感謝しています。



この経験から、これまでの自分の日本での生活を振り返ってみました。平山小学校にも、外国から英語を教えに来てくれている先生がいますよね。日本にいた頃、私はその先生を助けられていたんだろうかと考えてみると、全く力になれていなかったと反省しました。また、道端で困っている外国人を見つけても、自分から声をかけたことは一度もなかったと思います。これからは、私がナミビアで現地の人々からしてもらったように、今度は私が日本に来た外国人の方に親切にできる人でありたいと思いました。日本では気が付かなかった、一人で慣れない地に住む人の気持ちに気が付くことができて良かったと思います。

最後に...

これまで長い間、ナミビア通信を読んでくださりありがとうございました。ナミビア通信を通して、皆さんの中で何か新たな気付きや変化はあったでしょうか？一人でも多くの人に、ナミビアのことに限らず、何かに興味をもつきっかけを与えられていたら、この通信を発行し続けた意味があったと感じます。

話したことのないクラスメイトに話しかけ、お互いを「知る」ことで、新たな仲良しの友達になれるかもしれないように、何かを「知る」ことは、新しい世界に飛び込む第一歩になるかもしれません。